

PEM024-P09

会場:コンベンションホール

時間: 5月25日17:15-18:45

極域ヒスの低緯度側の境界

Low latitude side boundary of polar hiss

恩藤 忠典^{1*}

Tadanori Ondoh^{1*}

¹宇宙地球環境研究所

¹Space Earth Environment Laboratory

南極の昭和基地で観測したISIS-2のVLF電場データを解析して、磁気圏のホイ斯拉モードVLFヒスの静穏時と擾乱時の緯度変化を解析した。広帯域の極域ヒスはプラズマシート境界層から降下する高エネルギー電子によって発生された、ホイ斯拉モードの広帯域のセレンコフ放射波である。極域ヒスの低緯度境界は、磁気静穏時には磁気緯度70度付近、擾乱時には65度になる。この極域ヒスの低緯度限界は、極域ヒスを発生する降下電子の内部境界だろうか？
事実、極域ヒスは、プラズマポーズ付近では観測されていない。

キーワード:極域ヒス,低緯度側境界,磁気活動依存性,極域磁気圏,ホイ斯拉モードVLF波,チェレンコフ放射

Keywords: Polar hiss, Low latitude side boundary, Magnetic activity dependency, Polar magnetosphere, Whistler-mode VLF waves, Cherenkov radiation